

東海医療科学専門学校 学校自己点検・評価表

評価対象期間・：令和6年4月1日～令和7年3月31日

実施日：令和7年6月4日

1. 令和7年度 学校目標

「日本一の専門学校を目指す」

- (1) 教職員の共通理解のもと、セムイ学園のミッションの実現を図る。
- (2) クレドに基づいた行動をとる。
- (3) 国家試験合格率愛知県1位を目指す。

2. 令和7年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画

- (1) 学園ブランドの進展
- (2) 教育理念に基づいた教育の実践
- (3) 国家試験合格率愛知県1位
- (4) 学生募集対策
- (5) 学科内融和対策（教員クレド）
- (6) ICT活用の推進
- (7) 5S活動の推進

3. 令和6年度の評価項目の達成及び取組状況

1 教育理念・目標		適切：4、ほぼ適切：3 やや不適切：2、不適切：1
1-1	学校の理念・目的・育成人材像は定められているか（専門分野の特性が明確になっているか）	4
1-2	学生・保証人（保護者）に対して教育理念等を明文化し、周知しているか	3
1-3	教職員に対して教育理念等を明文化し、周知徹底を図っているか	4
1-4	学外の方に対して教育理念等を明文化し、公表しているか	4
1-5	各学科の教育目標、育成人材像は、学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか	4
1-6	社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか（学校の将来構想を描くために、業界の動向やニーズを調査しているか）	4

1-7	学校における職業教育の特色は明確になっているか	4
-----	-------------------------	---

① 課題

- ・令和6年度にセムイ学園は、これまでの教育成果をもとに新たな時代の要請を踏まえ、より効果的な教育実践を図るため3つのポリシーを刷新した。
また、「セムイ学園の使命」を「セムイの精神（手をさしのべられる心）を身に着けた社会に貢献できる医療・福祉従事者を育成する。」として育成人材像を明確して、学園内外に発信することとした。
- ・これを受け科学校では、初めに各学科のディプロマポリシーを学科教員全員の参画により策定した。
今後は、このディプロマポリシーの実現に向けた「カリキュラムポリシー」「シラバス」等の策定・見直しが課題となる。
- ・「3つのポリシー」の刷新、「セムイ学園の使命」の明文化により、教育理念・目的・育成人材像をより明確にした。今後は、このことの更なる周知が課題となる。
- ・クレド活動や日常の教育活動を通して、卒業生アンケートでは教育理念の認知度は若干上昇した。教育理念・目的・育成人材像は明確に定め周知している。卒業生アンケートでは昨年度より改善されたが、認知度は十分ではない。

② 今後の改善方策

- ・「カリキュラムポリシー」「シラバス」の策定・見直しは「カリキュラム・ツリー」や「カリキュラム・マップ」を活用し、学科教員全員が丁寧に議論を重ね共通理解を図ることが重要である。
- ・クレド活動3年目を迎え様々な施策を講じ、学生と教員が行動ベースでクレドを実感できるようにする。

③ 特記事項

- ・令和7年度より学園法人本部に「教学マネジメント部」を設置し、教育活動全般の改革を推進することになった。

2 学校運営		適切：4、ほぼ適切：3 やや不適切：2、不適切：1
2-1	教育方針や教育目的等に沿った運営方針が策定されているか	4
2-2	運営方針を教職員に周知しているか、また必要に応じてその理解の状況を確認しているか	4
2-3	寄附行為、理事会会議規則等（法人）、学校の運営規程等が整備され、それらに従って理事会・評議員会（法人）が開催されているか	4
2-4	運営組織や意思決定機能は、規則等において明確化されているか、有効に機能しているか	4
2-5	運営会議（学科長会・教学事務連絡会等）が定期的に行われているか	4

2-6	専攻分野に係る関連分野の企業・団体等と連携し、実務に関する研修や指導力の修得・向上のための研修等を受講させているか	3
2-7	教育活動等に関する情報公開が適切になされているか。	4
2-8	人事、給与に関する制度を整備しているか	4

① 課題

教員研修について、専門分野の実務に関する研修には受講できているが、指導力や教育に関する研修の受講は、対象となる研修が少ない場合や遠方で受講しにくい場合がある。

② 今後の改善方策

指導力や教育に関する研修は、外部講師を学校に招聘し、学校で受講できるようにした。今年度は教職員全体研修として8月6日に実施をする。

③ 特記事項

- ・令和7年度から工学校の空き教室を活用した不動産賃貸業を行うために、寄附行為を改正した。
- ・運営方針を教職員に周知するために、4月1日に全教職員を対象とした教職員会議を開催し、理事長による事業方針の説明、法人本部各部署の事業計画の説明をした。

3 教育活動		適切：4、ほぼ適切：3、やや不適切：2、不適切：1
3-1	教育目的および育成人材像に基づき教育課程の編成・実施方針(カリキュラムポリシー)を明示し、また学校構成員(教職員および学生等)に周知し、社会に公表されているか。	4
3-2	教育目的および育成人材像に基づきディプロマポリシーを明示し、また学校構成員(教職員および学生等)に周知し、社会に公表されているか。また定期的に検証を行っているか	4
3-3	講義および実習に関するシラバスは作成されているか	4
3-4	各科目の一コマの授業について、その授業シラバスが作成されているか	4
3-5	シラバスあるいは講義要項(作成されていればコマシラバス)などが事前に学生に示され(あるいはホームページなどで公開されて)、授業で有効活用されているか	4
3-6	質保証を目的とした授業や学習の定期的な観察を実施しているか	3
3-7	学生によるアンケート等で、適切に授業評価を実施しているか(学習の目的を満たしているか、満足度を含めて定期的に確認しているか)	4

3-8	評価結果を教員にフィードバックするなど、その結果を授業改善に役立っているか	3
3-9	カリキュラム作成メンバーの中に業界関係者などの外部関係者を入れているかまたはその意見を取り入れているか	4
3-10	成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確になっているか	4
3-11	学生や保証人（保護者）に対し、成績評価・単位認定の基準、進級要件、卒業要件はきちんと提示されているか	4
3-12	各規定に基づいて適切に成績評価・単位認定、進級・卒業判定を行っているか	4
3-13	資格取得等に関する指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか（発行する修了証明書の種類及び内容）	4
3-14	キャリア教育を行ない、学生の社会的・職業的自立に向け必要な基盤となる能力や態度を育成しキャリア発達を促しているか	4

① 課題

授業評価については、実施方法の変更もあり例年と同じ形での正確な実施ができなかった科目等があった。

② 今後の改善方策

反省を生かして、新しい形での授業評価システムを検討し、実施できる状態となっている。より多くの人数から正確な評価を収集できるよう進めている。

③ 特記事項

特になし。

4 学修成果・教育成果		適切：4、ほぼ適切：3、やや不適切：2、不適切：1
4-1	学生の学修成果の評価に際して、育成する人材像に沿った評価項目を定め、明確な基準で実施されているか	4
4-2	対外部に向けた就職実績を公表しているか（パンフレット・HP等）	4
4-3	資格取得率の向上が図られているか（目標とする資格試験等への合格率は全国平均と比較してどうか）	4
4-4	国家試験結果に関して検証・報告がされたか	4
4-5	国家試験結果（合格者数・合格率）を公表しているか	4

4-6	卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか（卒業生の就職後の動向を出 来るだけ把握し、卒業後にも就職その他の支援を行っているか）	2
-----	--	---

① 課題

・連絡の希薄化

卒業時に連絡先を交換していない、あるいは卒業後の近況を報告する機会が少ないため、学生との継続的な関係を築けていないケースがあります。SNS でのつながりも限定的である。

・活躍状況の把握困難：

卒業後の学生の活躍状況を把握することが難しいのが実情です。転職などにより連絡先が変わってしまうことも多く、築いた関係が途切れてしまうこともあります。

・活躍評価の基準の不明確さ

学生の卒業後の活躍を評価するための具体的な基準が明確ではないため、学校として卒学生たちの成長や貢献を適切に認識・評価できていない実情がある。

② 今後の改善方策

卒業後に就活する学生との連絡を維持するためには、学生向けの卒業後の連絡先共有サービスの利用や、卒業生向けのイベント開催（オンライン・オフラインでの交流）を積極的に行っていく。

③ 特記事項

特になし。

5 学生支援		適切：4、ほぼ適切：3 やや不適切：2、不適切：1
5-1	学生への修学支援を適切に行っているか	4
5-2	進路・就職に関する支援体制は整備されているか（またそれはきちんと学生や保証人（保護者）に周知されているか）	4
5-3	学生相談に関する体制は整備されているか（相談窓口が設置されているか）	4
5-4	学生の面談・相談記録があるか	4
5-5	奨学金制度など、学生の経済的側面に対する支援体制は整備されているか	4
5-6	学生の健康管理を担う組織体制はあるか（学生の健康診断を実施しているか、また健康相談窓口は整備されているか）	4

5-7	退学率の低減が図られているか（出欠状況及び学習者の減少に関する分析が行われているか）	4
5-8	退学率の低減に関する目標・計画が教職員に共有されているか	4
5-9	退学者数を公表しているか	4
5-10	保証人（保護者）と適切に連携しているか（保証人のニーズを把握しているか）	4
5-11	保証人（保護者）との計画的な相談会・面談を行っているか	4
5-12	卒業生への支援体制を整備しているか（再就職、キャリアアップ等について、相談に乗っているか）	3
5-13	卒業生への卒業教育等の支援体制はあるか（卒業生への講習・研修を行っているか）	3

① 課題

退学率は一昨年度までは減少傾向を継続できていたが、前年度は増加した。ケースごとに学科、部で共有・分析をその都度行っている。多種多様な学生が入学してくるようになり、学生相談を利用する学生も増加傾向にある。

② 今後の改善方策

退学に至る原因は多岐にわたるため、「基礎学力・勉強習慣の不足によるモチベーションの低下」、「クラス内の人間関係のトラブル」などに対応できるよう、「ベーシックスタディプログラム（個別補習）」や「面談（定期・危機介入）」を実施している。

学生相談カウンセラーも2名体制として、より多くの学生をサポートできるように整えた。

③ 特記事項

特になし

6 教育環境		適切：4、ほぼ適切：3 やや不適切：2、不適切：1
6-1	学生が利用できる参考図書・関連図書は備えられているか	4
6-2	教育上の必要性に対応した機材・備品を整備しているか	4
6-3	学内外の実習施設、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか	4
6-4	防災に対する組織体制を整備し、適切に運用しているか	3
6-5	防災・防犯設備（非常灯・消火器・警備システム等）が整備・点検されているか	4

6-6	定期的に防災訓練を実施しているか	3
-----	------------------	---

① 課題

- ・危機管理マニュアルが平成20年度より未改定となっている。
- ・防災訓練実施要項が未整備となっている。

② 今後の改善方策

- ・令和6年度に危機管理マニュアル改定案を作成。令和7年度中に改訂版施行の予定
- ・職員向けの防災訓練、学生のシェイクアウト訓練は実施、郊外への避難訓練を令和7年度に実施の予定

③ 特記事項

特になし

7 学生の受入れ募集		適切：4、ほぼ適切：3 やや不適切：2、不適切：1
7-1	学校案内に、育成人材像、特徴、目指す資格・免許等をわかりやすく紹介しているか	3
7-2	学校説明会等による情報提供（育成人材像、目指す資格、学費・教材費等の情報）を行っているか	4
7-3	入学予定者に対し学習指導・支援等が行われているか	3
7-4	学校案内等には選抜方法が明示されているか（入学に必要な学力、スキル、資格、職業経験などの、前提となる要件が明示されているか）	4
7-5	学生の受け入れ方針に基づき、公正かつ適切に入学者選抜を行っているか	4
7-6	学納金は妥当なものとなっているか	4
7-7	学校案内等に、学費、受験料、学習教材の購入費等が明示されているか	4

① 課題

学校案内には紙面の限りがあるため、ディプロマポリシーなどの3つのポリシーはホームページ上で掲載している。入学者に対する学習指導・支援等については、よりスムーズな高専接続のための適切な学習支援について模索している。

② 今後の改善方策

学校案内に3つのポリシーを紹介しているホームページを紹介する二次元コードの掲載を検討する。

入学者に対する学習指導については、教学部と連携してオンライン教材を導入するなど、引き続き適切な支援方法を模索する。

③ 特記事項

特になし。

8 教育の内部質保証システム		適切：4、ほぼ適切：3 やや不適切：2、不適切：1
8-1	養成施設指定規則等の遵守と適正な運営がなされているか	4
8-2	関係法令に基づく管理運営に関する学内諸規程を整備し適切に運用しているか	4
8-3	ハラスメントの防止について規定を文書化し、対策を立て実行しているか	4
8-4	学校が保有する個人情報保護に関する対策を実施しているか	4
8-5	個人情報保護規程が文書化されているか	4
8-6	自己点検・評価の結果に基づき改善計画を策定したか	4
8-7	学校関係者評価の実施体制を整備し、学校関係者評価を実施し、改善の取組みを行っているか	4
8-8	自己評価、学校関係者評価結果及び教育活動等に関する情報公開が適切になされているか	4

① 課題

- ・情報セキュリティ関連の意識向上のための特別な講習会等ができなかったが、随時個別に指導を行った。
- ・内部監査員を学科長級の教員から選任することを検討したが、学科長の業務が増加しており、負担過重になることが想定されたため、事務職員で監査を実施した。

② 今後の改善方策

- ・情報セキュリティ関連の講習会を実施し、教職員の情報スキル向上を図るため、e ラーニングや試験の導入を検討し、全体的なリテラシー向上に努めていく。

③ 特記事項

- ・内部監査について、法人本部総務部と経理課職員が監査を担当し、教学監査を実施した。一部の項目では正処置とフォローアップを行ったが、最終的には不適合な事項はなかった。

9 財務		適切：4、ほぼ適切：3 やや不適切：2、不適切：1
9-1	教育活動を安定して遂行するために必要かつ十分な財政的基盤を確立しているか	4
9-2	年度予算・中期計画が策定されているか	4
9-3	予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	4
9-4	予算及び計画に基づき適正に執行管理を行っているか	3
9-5	私立学校法及び寄付行為に基づき適切に監査を実施し、理事会、評議員会に報告しているか	4
9-6	財務情報公開の体制を整備し、適切に公開しているか	4
9-7	財務情報の公開について、ホームページに公開するなど積極的に取り組んでいるか	4

① 課題

学生数の減少により、経常収支の黒字額が減少した。
また、物価高により経費削減が必要である。

② 今後の改善方策

- ・経費削減について学内コミュニケーションツールを使い、アイデアを募った。教材費の上限を設け臨床実習費の経費削減策などについて意見があった。実施可能な事項は、実施計画を立案して、実施していく。
- ・臨時案件について財務面での中長期計画を策定した上での判断をするようにする。引き続き、計画的な学校ごとの施設設備の修繕を改修計画に基づき実施していく
- ・消耗品や光熱費、コピー機の使用状況に加え、昨年度より値上げされた郵便料金や実習時の宿泊費等を学科ごとに分類することで、各学科における経費の詳細を把握するとともに、教職員に対するコスト意識の徹底を図っていく。

③ 特記事項

会計監査は、公認会計士及び監事により適正に行われている。

10 社会貢献・地域貢献		適切：4、ほぼ適切：3 やや不適切：2、不適切：1
10-1	学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	4
10-2	地域に対する公開講座・教育訓練（公共職業訓練等を含む）の受託等を積極的に実施しているか	4
10-3	学生のボランティア活動を奨励し、具体的な活動支援を行っているか	4

① 課題

学校施設の積極的活用についての案内のPR方法をどのように行っていくか。また、時代の変化に応じた地域の方々に求められる内容をどのように把握するか。ボランティア活動については依頼をどのようにして獲得するかが課題である。

② 今後の改善方策

多様な講座内容の拡充： 医療技術の進展や社会の高齢化に伴うニーズを捉え、既存の専門分野に加えて、介護予防、地域包括ケアなど、より幅広いテーマの公開講座やセミナーを企画する。

広報活動の強化： 公開講座や職業訓練の情報を、地域の広報誌、ウェブサイト、SNS などを通じて積極的に発信し、地域住民への認知度を高めていく。

③ 特記事項

- ・ 地域住民向きの科学校内でセムイサロンを毎月開催している。
- ・ 大同病院での災害訓練のスタッフ（患者役も含める）として参加。
- ・ 毎月の学校周辺の清掃活動の実施している。